

「図書館分科会」講評

CAUA 運営委員・図書館分科会担当（南山大学）

栗山義久

大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化が求められて久しい。電子図書館と呼ばれるサービスは個々には進められているが、従来型メディアで作られた資料をデジタル化して提供しているものが中心で、多くの図書館はその技術的な進展を見守っているのが現状のようです。そのような状況の中で、今回は3題の研究発表・報告が行われました。

南山大学の事例報告「図書館システムの分館デリバリ運用」は、物と情報をいかに効率よく提供するかという物流システムですが、図書館がネットワーク上でどのようなサービスを展開していくかという視点から見れば、デジタルデータとの組み合わせで捉え直すこともできると思います。つまりデータベースからの全文情報の提供を除いて、目録・Index等の二次情報の提供はそのままでは完結せず、その後のユーザーが求める最終情報を入手するまでの経路を、いかにシンプルにリンク（ナビゲート）させていくかが大きな課題だからです。

また、インデックスや電子ジャーナル等既成データベースの提供は進んでいますが、自らのコンテンツ作成には中々手が付けられないのが現状です。そのような意味で、「電子図書館の動向」の発表は、デジタルライブラリの構築実績を踏まえての報告だけに、その構造、作成手法等の説明は大変参考になったと思います。

「NeoCILIUSの最新報告」は、CILIUS導入館にとって興味あるかつ直接業務と結びつく切実なテーマです。今回は収書業務中心でしたが、今後も新たに追加されるKnowledgeOPACや電子図書館的機能については関心も高く、サービスを展開する上で大きな課題でもありますので、今後もタイムリーに情報提供を続けてもらいたいと思います。